

天塩川流域住民として、50年間名寄川と共に歩んできた視点で、意見を申し上げます。

小学生の頃より私たちにとって名寄川は、かけがえのない存在でありました。その当時、川は四季おりおり発する自然環境より、私たちに様々な遊び・学習を提供し続けてくれました。それは、水泳、魚すくい、釣り、虫取り、また植生を利用した冒険だったり、また、それらを通じた生物的な学習、そこから生まれる、人間としての成長をも与えてくれたような気がします。

現在の河川環境は、残念ながら昔のように決して、良い環境とはいえません。それは自然そのものの変化というよりは、社会環境の変化によつての結果と判断しています。個人としては、数十年前の状態、たくさんのカジカやドジョウがいる名寄川で、子どもと一緒に遊びたいとおもっています。

一連の会議等の内容を新聞等で拝見させていただいて、この人は本当に考えているのかな、と思うような意見の方が多く感じました。今だけの自然、今だけの状況改善だけを考えるのではなく、数十年前に川で育てられたものとしては、過去にもさかのぼり、未来を見据えた長いスパンでの判断が必要だと思います。どう自然と共存していくのかが重要なポイントです。

現在、地球上の自然環境は、予断を許さない状況が、まま起きるのが昨今であることは周知の事実です。未来への展望をするうえで、地球環境の変化を考え、異常低気圧の発生など、いま対処しなくてはなりません。それによつてもたらされる水害、暴風雨など災害を未然に防ぐことを率先させ、流域住民と共存する自然環境を整えることが必要です。

自然は今が全てではなく、流域全体で自然を育むことが、これから我々が行わなければなりません。

本整備計画（原案）では、充分なる自然環境の維持をテーマのひとつにしておられます。整備中、整備後においても適宜、状況の推移を判断して、過去の生態系に戻すような河川整備を早急に取りかかるようお願いいたします。